

はじめに

全国的な大寒波が過ぎたかと思うと、村内の雪を溶かしてしまうほど暖かい日が続き、春が来てしまうのではないかと心配した2月中旬。地域の方からは「このまま暖かい日が続いて、春を迎えるなんてことはないから大丈夫だよ。」と教えていただき、冬の活動がもう少し楽しめそうで安心しています。子どもたちも週末のスキー活動を楽しみにしているので、「これだけ降れば、スキー場もいい感じかな?」と雪が降ると嬉しそうに話しています。

さて、いつも通りの生活を送っていると、みんなで過ごす山村留学生活がまだまだ続くような気がしてしまいます。しかし、第2期山村留学修園まで残りひと月となりました。子どもたちも「3学期はあっという間に過ぎていく」という継続生の言葉の実感がやっとわいてきたようで、「個人体験日もうあと1日しかないの?時間が足りない、放課後もやらなくちゃ!!」「ホームステイもあと1回?早いな・・・。お父さんに三味線を教えてもらわなきゃ。」などと、残された時間の短さに驚きながらも、今年度の山村留学をやり切りたいという気持ちが感じられます。子どもたちのその気持ちを応援し、私自身もみんなで過ごせる時間を大切にしていきたいと改めて感じています。

最後になりましたが、日頃より留学生の成長をあたたかく見守ってくださる皆様に感謝申し上げると共 に、修園までのあとひと月、変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

山下 ひかり





【 活動カレンダー 】

<u>1月</u>

28日 アルペンスキー

29日 個人体験活動

30日 ホームステイ入り

2月

9日 センター入り

11日 スポーツ少年団(スキー)、

両百瀬雪のつどい、

保護者来園行事(~12日)

18日 スポーツ少年団(スキー)

〒939-2516

富山県南砺市利賀村坂上 18 南砺利賀みらい留学センター TEL: 0763-77-4103 FAX: 0763-77-4037

> MAIL: nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp WEB: http://www.nanto-toga.com/





1/28 アルペンスキー・ 2/11・18 スポーツ少年団(スキー)

1/28 はセンター活動でタカンボースキー場へ、2/11・2/18 は旧スノーバレースキー場にてスポーツ少年団のスキー活動に参加しました。タカンボーでは、引き続き基礎技術の講習、旧スノーバレーでは、3/4(土)に行われる平地域のスキー大会へ向けて、ポールレースの練習をしました。「OOよりも早く滑れたと思う!」「もう少しで足が揃うんだけどなぁ…」など、それぞれに課題を持ってスキー活動に取り組んでいます。

〈検定への意気込み〉

2/19 にアルペンスキーを行い、その活動の中でスキー検定を受ける予定でしたが、雨天により活動が中止。 次の機会に向けて準備を整えています。



智康

パラレルターンは今年に 入ってからできるように なったので、ちゃんとき れいにすべれるか分から ないけど、スキー検定で はパラレルターンをがん ばりたいです。



翇

今年、人生で初めてスキーをして、すべれるようになりました。 今回うける 4 級のしゅ目は、ハ の字のリズム変化です。大回り と小回りがあり、小回りがにが てなので小回りを練習して、う かるようにがんばりたいです。

2/11・12 保護者来園行事

留学生の保護者が訪れ、留学生と一緒に週末の活動を行いました。土曜の午前中は、スポーツ少年団の活動で旧スノーバレースキー場へ。地元の保護者が動かしてくださっているリフトや、上達した子どもたちの滑りを見て、留学生の保護者も「すごい!」と驚きながら、ノルディックスキーをしたり、見学を楽しんだりしていました。留学生も「見て!」「写真撮って!」とスキーの上達をアピールしていました。午後は両百瀬雪のつどいに参加。設置された巨大なかまくらや雪の迷路、子ども達が彫った雪像に目を見張りつつ、お菓子やお汁粉などのふるまいをいただいたほか、そり遊びやゲームへの参加など、充実した時間を過ごしました。保護者は夕方のキャンドルロードと翌日の午前中も一緒に過ごし、修園が近づく中、親子で穏やかな時間を過ごすことができました。





家族が利賀の行事に一緒に参加し、地域の方々とお喋りしている姿を見て、 とても楽しそうにしているのを覚えています。大きな雪像やカクテルのショ ー、そりを妹がとても喜んでくれていてうれしかったです。また家族で利賀の 行事に参加したいです。 (日陽)

〈日常の様子〉



修園に向けて、新たに挑戦する 演目を決めました

お母さんと一緒にうどん作りに挑戦!

上村地区のそば会に参加し、 そばを打ちました







厨房のお母さんにバレンタインクッキーを プレゼント



自分はうどんを作ったことがなかったので、作ってみたいと思いました。うどんをぼうでのばすのが 大変でした。こしが強く、かみごた えがあり、おいしかったです。また 作りたいです。(在音)



3 学期誕生日会に向けて打ち合わせ



無能な職人が手がけるうどん、そんなコンセプトで行ったうどんづくり。最初バタバタしすぎて大変でした。しかし、在音のお母さんの協力のもとすごくだん力のあるうどんができました。大変だったけれど、またいつかやりたいです。(尊人)

「トウモロコシの 種だと思って植えたら、 インゲンの種だった…」 突然始まった寸劇大会



くき爺のつぶやき・・・

はつうま通信7月号で、トム・ソーヤースクール企画コンテストに応募し選考によって実施支援団体(全国で50団体)に選定され、多様な体験活動に取り組んでいることをお伝えしましたが、このたび実践内容の審査会があり、利賀村をフィールドにした春から秋にかけての活動が一般部門「優秀賞」を受賞し、横浜市で開催された表彰式に出席、活動報告をさせていただきました。表彰理由は「山里の生活文化が残る源流地域の村で、地域の子どもたちと都会か

らきた山村留学をしている子どもたちが山里の地域環境や生活 文化を生かした豊富な自然体験を展開している点や子どもたちが 主体性をもって実践的に取り組んでいる姿を高く評価」とのこと。 この「人と人、人と自然、都市と山村の繋がりを青少年が体験を 通して学ぶ」をテーマとした取り組みが充実できたのは地域の みなさんの支援協力があってのものです。深く感謝を申し上げる 次第です。



統括主幹 山本光則

保護者だより

この冬も息子が帰ってきました!

帰省の度に深夜まで会話が続きます。

「雪、結構すごいで」「干し柿もらった」「大掃除は窓ふき頑張った」「学校から見た夕陽が綺麗だった」 「この野菜、なんか味が。。利賀の野菜は新鮮でおいしいから、そう感じるんかな?」「ごめん、買っても らったばかりのバドミントンラケットが。。」

不思議なのですが、息子から話を聞いている間、利賀の景色や澄んだ空気の匂い、赤かぶの漬物、澄んだ川の流れる音、村の方の温かさ、こども達の笑い声が頭の中に蘇ります。まるで利賀からの贈り物をひとつひとつ開けているような、わくわくした気持ちになります。この一年間で、麦や節・初午や左義長など知らないこともたくさん、こどもを通じて教えていただきました。

「利賀に来てくれてありがとう」と地元の方に言われることがありました。いえいえ、こちらこそ。ホームステイ家庭のお父さん・お母さんには利賀のこどもとして受け入れて下さり、利賀の地元の方々から山暮らしの知恵や伝統を教えてもらい、学校の先生方やセンターの指導員さんたちに頭と心の成長を支えていただき、深く感謝しています。

利賀での豊かな経験という贈り物を抱えた山村留学の こども達がこれからどのような人生を歩んでいくのでしょうか。 大人になったこども達と、ふるさと利賀で再会できる日を 楽しみにしています。

願います。これからも子供達が利賀に顔を出した際には、 今までと同様にお声かけを頂ければ大変嬉しく思います。

「利賀の子供として育ててもらえれば本望です。」これは第一期生入園の集い(2021年春)での保護者代表の挨拶の際に、私の口から出た言葉です。利賀で始まる山村留学を初めて耳にしたのは、有生が兵庫県で山村留学をしていた頃(5-6年生)のことです。その後、有生は山村留学を終え(当時住んでいた)京都市内で中学生となり、芽生の方は「利賀での山村留学の第一期生になる」と張り切っていました。私たち夫婦は「富山は遠いなぁ」と地図を見ながら暢気に話していたのですが、私の就職先が富山県内の大学に決まったことで、一転して2021年春より父(富山市)と母(神戸市(当時))と子供達(利賀)とが別々に暮らす生活に突入しました。一年目は行動制限が多い中でしたが、利賀の方々が山村留学生を心待ちにしてくれていたと感じる機会が幾度となくありました。二年目は、地域の春祭りに参加する機会にも恵まれ、さらには祭の中での「役割」も頂き、地域の伝統やそれを受け継ぐ方々の想いを、より強く実感する機会になったと思います。この様な原体験が「核」となって、今後の彼らの人格形成に繋がっていくことでしょう。子供達がかけがえのない体験をさせて頂いたことに対し、親としては感謝の言葉もございません。「利賀の地に子供達を預けて良かった」と心から思える幸せと共に、この山村留学事業が今後も長く継続されることを